

Mar. 31 2006

JEKS (The Japan Electronic Keyboard Society)

# News Letter

No.1

## 日本電子キーボード学会ニュースレター

### 目 次

1. ごあいさつ	吉田泰輔	2
2. 幹 事		2
3. 第2回全国大会のご案内		2
4. 会 員 (2006年3月31日現在)		3
5. ニュースレター発刊によせて		
5-1 日本電子キーボード学会に期待すること	仁田悦朗	4
5-2 電子オルガンと声楽	山咲史枝	4
5-3 日本電子キーボード学会の皆様、こんにちは	前木洋美	5
5-4 さくら歌劇団とハイブリッドオーケストラ	加賀誠二	5
5-5 デジタル楽器の可能性と展望	篤田勝宏	6
5-6 「デジタルピアノにしておくか…」の時代から 「デジタルピアノを楽しみたい！」の時代へ	大村泰之	6
6. 事務局からのお知らせ		
6-1 第2回全国大会「研究発表者募集」		7
6-2 学会誌第2号「投稿者募集」		7
6-3 ホームページについて		8
学会申込書		8
編集後記		8

日本電子キーボード学会 事務局

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺 1-16-6 昭和音楽芸術学院 阿方気付

Tel : 044-953-1230 Fax : 044-953-6580

E-mail : [jeks@snow.ocn.ne.jp](mailto:jeks@snow.ocn.ne.jp) H.P. : <http://www18.ocn.ne.jp/~jeks/>

\*アドレスが変更になりました。

## ごあいさつ

吉田泰輔（幹事代表）

日本電子キーボード学会では、このたびニュースレターを発刊することとなりました。未だ会員数が百に満たない発足したばかりの学会としては、年に一回の全国大会や学会誌だけでは、学会の直近の動きや会員諸兄姉の活発な活動情報や電子キーボードを取り巻く世界の変動を、情報としての確かつ迅速にお知らせできません。そこで、ニュースレターを発行することで、そうした機能を補おうと考えたのです。ご自分の研究活動の状況や楽器や演奏をめぐる様々な議論や動きなどを、このニュースレターに宛ててお寄せいただくことで、の紙面を豊かにし、ひいては学会の水準を高め、会員相互の情報連絡を密なものとしていただければと願っております。

## 幹 事

代 表：吉田泰輔（国立音楽大学）

副代表：下八川共祐（昭和音楽大学）、高萩保治（東京学芸大学名誉教授）

幹 事：安藤恭子（鶯谷高等学校）、赤塚博美（洗足学園音楽大学）、出田敬三（平成音楽大学）

遠藤雅夫（日本現代音楽協会）、小川秀樹（広島音楽高校）、大串和久（大宮光陵高等学校）

海津幸子（昭和音楽大学／洗足学園音楽大学）、柴田 薫（昭和音楽大学）

中村 誠（浜松学芸高等学校）、野口剛夫（昭和音楽大学）、初山正博（世田谷区立明正小学校）、森松慶子（国立音楽大学）

事務局：阿方 俊（昭和音楽大学）、生頼俊秀（昭和音楽大学）

\*第3回幹事会（3月29日）において、内山澄孝（国立音楽大学）、中地雅之（東京学芸大学）、柳田孝義（文教大学）の3氏に新たに幹事に加わっていただくように依頼しました。（4月15日追記）

## 第2回全国大会日程

第2回全国大会の日程が決まりました。研究発表など7ページの「事務局からのお知らせ」を参考にしてください。

と き：2006年10月28日（土）

と ころ：国立音楽大学（東京都立川市柏町5-5-1）

西部新宿線玉川上水下車またはJR立川駅より多摩都市モノレール玉川上水下車、徒歩約8分

内 容：基調講演

研究発表（電子キーボードに関する表現、教育、理論など）

総会

研究コンサートなど

この他、ラウンドテーブルなど

\*スケジュールは暫定的なものです。詳細については、ホームページなどを通して順次発表していきます。

# 会 員

(2006年3月31日現在)

## 1. 正会員

安藤恭子（鶯谷高等学校）、阿方 葵（竹早教員保育士養成所）、阿方 俊（昭和音楽大学）、赤石敏夫（赤石音楽研究室）、赤塚博美（洗足学園音楽大学）、赤松英彦（くらしき作陽大学音楽学部）、出田敬三（平成音楽大学）、伊倉由紀子（昭和音楽大学）、内山澄孝（国立音楽大学）、遠藤雅夫（日本現代音楽協会）、生頼俊秀（昭和音楽大学）、小沢真弓（鬼高公民館社会教育指導員）、小川秀樹（広島音楽高等学校）、大串和久（大宮光陵高等学校）、奥平純子（昭和音楽大学）、景山建樹（清見潟大学塾）、海津幸子（昭和音楽大学／洗足学園音楽大学）、梶 麻衣子（八王子市立長房小学校）、柏村 治（昭和音楽大学）、木村美智雄（㈱トーオー楽器）、木村英寛（浜松学芸高等学校）、久保智美（オンドマルトノ奏者）、見野康幸（昭和音楽大学）、小池純江（昭和音楽大学）、小熊達也（サウンドインターフェイス）、金銅英二（松本歯科大学）、佐藤美千枝（スガミ楽器・教室事業部）、柴田 薫（昭和音楽大学）、清水徳子（平成音楽大学）、下八川共祐（昭和音楽大学）、陣内美紀子（平成音楽大学）、鈴木しおり（浅井学園大学）、須田マリ（竹早教員保育士養成所）、高島和義（高島武慶おふいす）、高田俊治（昭和音楽大学）、高萩保治（東京学芸大名誉教授）、高橋由美子（浜松学芸高等学校）、田中久明子（ヤマハ音楽教育システム）、谷口弘子（竹早教員保育士養成所）、常政芳子（ヤマハ・ミュージック横浜・湘南）、中島百合子（大垣女子短期大学）、中島洋一（国立音楽大学）、中村 誠（浜松学芸高等学校）、西山淑子（昭和音楽大学）、仁田悦朗（i-moa 音楽教育研究所）、野口剛夫（昭和音楽大学）、初山正博（世田谷区立明正小学校）、坂利美（ヤマハ音楽教育システム）、福田裕子（広島文化短期大学）、藤井祥子（ピアノ教育家）、前田栄子（昭和音楽大学）、松原京子（広島音楽高等学校）、松宮 敬（福岡女子短期大学）、三宅康弘（洗足学園音楽大学）、迎 晶子（ヤマハ・ミュージック藤沢）、森 直樹（昭和音楽大学）、森岡 葉（フリーライター）、森崎貴敏（昭和音楽大学）、森松慶子（国立音楽大学）、山崎史枝（国立音楽大学付属高等学校）、山中秀樹（山口市立小鯖小学校）、柳田孝義（文教大学）、吉田泰輔（国立音楽大学）、脇山純（平成音楽大学）

## 2. 学生会員

加藤祐香（国立音楽大学）、呉 佳正（昭和音楽大学）、前木洋美（宇都宮大学）

## 3. 団体会員

国立音楽大学（吉田泰輔）、昭和音楽大学（下八川共祐）、平成音楽大学（出田敬三）、浜松学芸高等学校（中村 誠）、広島音楽高等学校（小川秀樹）、NPO 法人さくら歌劇団（加賀誠二）

## 4. 賛助会員

（財）ローランド芸術文化振興財団（梯 郁太郎）、ヤマハ株式会社（伊藤修二）、河合楽器製作所（大窪素雄）、㈱トーオー楽器（木村美智雄）、鈴木楽器販売㈱（佐久間和弘）、ヤマハ・ミュージック西東京（池田 勉）

## 「日本電子キーボード学会に期待すること」

仁田 悦朗 (i-moa 音楽教育研究所 正会員)

デジタル分野のテクノロジーがもたらした最大の功績は、万人に自由な表現の場と機会を提供してくれたことにある。多くの人々が自分のホームページを持ち、ブログが隆盛を誇っていることは、その証左である。音楽の分野に於いても、電子楽器の出現によって、誰にでも「音楽に働きかける」「音楽にかかわれる」状況が生まれ、技能や経験にかかわらず音楽で自己表現することが可能になったという点に最大の意味がある。これからの生涯学習社会に於いては、従来尊重されてきたステージに向かう音楽ばかりでなく、誰かに聴いてもらうことが目的ではない、自分の課題に挑戦すること、自分の力の高まりや音楽に触れることそれ自体を楽しみ味わうことが主たる目的として意識される場の音楽も重視されるべきであろうと考えている。いわばPLAYする音楽である。そうした自分の力や世界の広がりを楽しみ味わうことを可能にしたのが電子楽器、とりわけ電子キーボードであるが、教科の学習に供されるにしても、ステージでの演奏を目的とした練習・発表に供されるにしても、音楽への創造的な参加を促す意味で「音楽に働きかける」「音楽にかかわる」という視点は不可欠である。それを容易にした点にこそこの楽器の存在意義があると考えられるが、その存在意義が増し、生涯学習社会に於ける「学び」にいつそう寄与できるようになるために、またステージに向かう音楽に於いても、その特性を發揮できるようにするために、①電子キーボードに求めるものは何か、②学習環境にどのような変化が期待できるか、③指導のあり方もどう変わるのが望ましいか等のことが学際的な協議と検証の中で明らかになること、それが本学会の活動に寄せる期待である。

## 「電子オルガンと声楽曲」

山咲史枝 (ソプラノ、国立音楽大学附属高等学校講師 正会員)

W.A.Mozart 生誕 250 年祭に湧く今年、我が第二の故郷<ウィーン>の思い出を語る機会が多い。その中から 1993 年 2 月に、私のオペラの学び舎でもあるウィーン市立音楽院・大ホールにおいて、行われた電子オルガン (1~4 台の演奏) によるコンサートの事を述べてみたい。ソロ曲の他、ピアノ協奏曲やオペラアリアのオーケストラパートを、日本から遠征した 4 人の電子オルガン奏者 (伊藤佳苗、大石純子、海津幸子、柴田 薫) が披露し高評を得た演奏旅行であった。

当時の私は既に日本での演奏活動を開始し母校で教鞭をとっていたので、ウィーンへ「故郷に錦を飾りに行く」思いでそのチームに参加した。演奏旅行はウィーンにとどまらず、アルクマール (オランダ) まで及び当時まだ電子楽器を<日本の珍しいもの>としか認識してなかったヨーロッパ人達を感動の渦に巻き込んだ。

91 年に電子オルガンと私がアンサンブルを始めた頃は音楽事務所が用意したコンサート企画のもの (主にオペラ) を歌うだけであったのに、電子オルガンに対する夢、それはいつしか R.Strauss のオーケストラ歌曲にまで及んでいた。その後 2 年間、今でもおつきあい下さっている 4 人の奏者とヨーロッパツアーのために電子オルガン伴奏による「四つの最後の歌」を共に作り上げたのだった。そんな<ウィーン音楽作りの楽しい苦勞>を思い出していたとき、奇遇にも「府中の森芸術劇場ウィーンホールでリサイタルをやらないか」とのお話を頂いた。9 月 8 日は R.Strauss の命日にあたる。プログラムは迷わずウィーン楽派にしようと思った。伴奏は…ウィーン古典の歌曲をピアノフォルテで、R.Strauss 「ブレンターノの詩による 6 つの歌曲」全曲を電子オルガン (伊倉由紀子、柴田 薫) で、「21 世紀始まりの時、古い楽器と新しい楽器を結びつけたコンサートをやりたい!」と思った。18 世紀オリジナル楽器と 21 世紀電子オーケストラで歌える事に感謝しつつ。

日本電子キーボード学会の皆様、こんにちは。

前木洋美（宇都宮大学 学生会員）

私は、今年の3月に宇都宮大学教育学部の音楽教育専攻を卒業予定です。幼い頃から音楽が大好きで、積極的に音楽と関わってきました。ピアノやエレクトーンのレッスンに加え、小学校時代には児童合唱団で歌い、高校時代には伴奏をしたり、私の出身地である八重山地方の郷土音楽を三線で弾くことに夢中になったり、いろいろな経験をしました。大学では、ビッグバンドでアルトサックスを演奏する他、聖歌隊の経験をきっかけに、声楽にも強い興味を持つようになりました。

私の将来の目標は、音楽の教師になることですが、現在は、大学院の受験に向けて勉強中です。書物を読んだり、大学の先輩や学会の方々の話を聞いたりしており、今後は音楽教育に関する自分の考えを実践を通して確立していきたいと思っています。

最近特に興味があるのは、電子オルガンの教育における可能性です。幼い頃から電子オルガンに慣れ親しんだ私は、電子オルガンと関わってきて良かったと感じる場面が多々あります。記憶に新しいのは、小学校での教育実習の際に、電子オルガンを用いて効果的な授業ができたことです。小学校1年生の『おとのマーチ』という教材で、子ども自身で「かわいい音」「不思議な音」といったテーマを設定し、それに合った音をつくり、曲に合わせて演奏するという実践をしました。その際、電子オルガンで音量、音色、テンポ、リズムを工夫して様々な曲想の伴奏を用意しました。子どもの演奏に合った伴奏ができ、また子どもは伴奏に合わせて表情を工夫することができたように思います。電子オルガンを含む電子キーボードには、教育現場で様々な働きをしたり、音楽の根幹となる能力を養ったりすることのできる可能性があると考えています。これから音楽をより様々な角度から経験することを通して、教育における電子キーボードの望ましい使い方について考えを深めていきたいと思っています。

## 地方オペラ団とハイブリッドオーケストラ

加賀誠二（特定非営利活動法人さくら歌劇団 団体会員）

地方のミュージカルやオペラ公演にハイブリッドオーケストラが重要なファクターとなっているのは、1つ目は行政の凝縮を政策とした中で、予算の削減が大幅に進んでいることにより、オーケストラでの公演は不可能に近いことが上げられます。助成金や、補助金などの資金調達は厳しいのが現状。さらに行政主体の事業にオーケストラを起用しての公演は、難しいのが現状です。2つ目は民間レベルの予算が少ない小さな団体でもハイブリッドオーケストラを起用することで上質な公演が実現可能となります。3つ目はエレクトーン自体の音質が大幅に向上したことで、聴く人を魅了することが出来ます。4つ目はアマチュアのオーケストラに要求される音の正確さを、クリアしてくれることです。とくに弦楽器などは公演の良し悪しを握っている音色ですので大きなメリットです。5つ目はスケジュールの調整が容易になることです。ハイブリッドオーケストラなら、2人～4人などと少人数のスケジュール調整で稽古が可能となりますが、プロならまだしも地方のような仕事を持っているアマチュアオーケストラではこの様には参りません。6つ目にエレクトーンは表現力が豊かな楽器であり、いろんな楽器の音色を持ち合わせております。しかも、楽器の特性を学ぶことにより、あたかも本物の楽器のごとく演奏することが可能です。しかし大きな問題であり課題が存在します。それはスコアリーディングや譜割作業という内容です。地域ではこれらを経験する場も機会も極めて少なく、これらの課題をクリアする人材が育っておりません。かといって、短期間でこなせる内容でもないことは事実です。この問題をクリアするには長期にわたる講義と経験と実践を積むことが必要であります。この受け皿を整備することこそが地方でのハイブリッドオーケストラ普及への大きな糸口となることは明確です。

## 「デジタルピアノにしておくか…」の時代から「デジタルピアノを楽しみたい！」の時代へ

大村泰之（ローランド芸術文化振興財団専務理事 賛助会員）

今日のデジタルピアノのあり方、楽器としての可能性を、クラシック界、ポップス界を代表するアーティストたちと共に考え、共に世に問いたい…、そんな想いから2月21日大阪、23日東京にて「New Style Concert」を開催した。

両日共に超満員の観客を迎え、作曲家の千住明氏の総合司会・進行で幕をあげたこのコンサート。日本のクラシックピアノ界を代表する若手ピアニスト高橋多佳子さんをはじめ、加羽沢美濃さん、木原健太郎さんらを迎え、ピアノの歴史を綴った貴重な映像と各時代の曲の実演からクラシック、ジャズの名曲まで、デジタルピアノを通じて次々と醸し出される上質の音楽に、会場を埋め尽くした観客は驚嘆と感動の拍手を惜しみなく贈った。

その驚きには3つの要素があると考えている。まず[1]には、特に高橋多佳子さんの卓越したテクニックと高い音楽性、表情豊かなその演奏に対してである。聴く人の心の奥底にまで彼女の芸術性あふれる演奏が鳴り響いたに違いない。[2]には、何の無理もなく、あたかもアコースティックピアノを弾いているようにデジタルピアノを弾きこなす、第12回ショパン国際ピアノコンクール第5位入賞のアーティスト・高橋多佳子さんの姿に対してである。名手が弾くと楽器も名器になる瞬間を見たのである。そして[3]には、その繊細、かつダイナミックなハイテクニックとペダリング表現を余すところなく忠実に観客の耳に届けた、ローランドのデジタルピアノの機能性、鍵盤レスポンスの高さに対してである。「デジタルピアノ、電子楽器はここまで来たのか…」まさにそんな想いが驚嘆と感動の大拍手となったと感じている。

ローランドの創設者であり、当財団理事長である梯郁太郎が、30年ほど前に業界誌のインタビューで電子ピアノの将来予測を聞かれた際に、「近い将来、電子ピアノがピアノマーケットの50%になる」と伝えたとき、その場は大笑いになったという。しかし、それから約15年後にはそれが現実のものとなり、すでに台数ベースでは生ピアノを上回っている。今や、お店にピアノを買いに来るお客様の大半が電子ピアノの購入を目的とする時代になった。それは、ただ生ピアノの代わりに…、ヘッドフォンが使えるから…、軽いから…などという前時代的な考えからではなく、デジタルピアノにしかできない楽しみ方を家族みんなで味わいたい、デジタルピアノだからこそ表現できる音楽を楽しみたい、そんな想いからである。この事実こそ、デジタルピアノがひとつの楽器として認知されてきたことの証であり、本当の意味でのスタートラインに立ったということでもある。

## デジタル楽器の可能性と展望

篤田勝宏（ヤマハ株式会社執行役員 賛助会員）

現在、デジタル楽器は様々な音楽シーンに加え、音楽教育分野においても幅広く活用されるまでになりました。これも関係各位のご尽力の賜物と改めて感謝申し上げます。一方、技術革新と社会環境の変化が急激に進むなか、楽器と人との関わり方、デジタル楽器が担う役割が改めて問われています。楽器メーカーの立場から、今後の展望について簡単に述べてみたいと思います。

多音色、持続音も可能といった特徴を持つデジタル楽器は、音質レベルの向上とともに、幅広い表現力を持つ楽器として一定の評価をいただけるまでになりました。しかしながら、楽器と奏者の関わり方、演奏性への配慮といった点では、まだデジタル楽器では成し得ていないこともあります。

鍵盤に連動したハンマーで弦を叩くといった音源(振動体)に直接働きかける動きを必要とするアコ

ースティック楽器に対して、デジタル楽器では人間の何らかの動きをデジタル信号に変換すれば、音源(発信器)への入力方法となり得えます。精密に検知できるセンサーさえあれば、どのような動きでも入力信号に変換することが可能になるため、「入力の自由度」はアコースティック楽器よりも格段に高いといえます。このデジタル楽器ならではの利点を活かせば、もっと演奏性に優れ、人の意思が容易に反映できる形状・機構も考案できるはずです。そのためには、鍵盤も含めたインターフェースの最適性を追究するといった基礎的な研究も必要となるでしょう。

さらに、サンプリングを中心としたデジタル楽器の音色は変化のベクトルが画一的で、多様な音色コントロール性をまだ獲得していない、楽器としてふさわしい音響面での技術開発が必要だといったご指摘も受けております。メーカーとしては、楽器に求められる要求に対して満足のいく技術で応えていくということに尽きると思います。

デジタル楽器の利点を活かす方向としては、ネット環境を活用した新しい展開も考えられます。現在のデジタル楽器はダイレクトにネットに接続できるようになり、すでに楽器のデータや楽譜の配信サービス、映像も含んだライブ配信、楽器自体のバージョンアップなどのサービスを提供しております。近い将来、遠隔レッスンや講義の多地点配信など、音楽教育や生涯学習の分野での活用も現実のものになっていくと予測されますが、その実現のためには産学協同による音楽教育の研究、ソフト開発が不可欠となってくるでしょう。

技術革新は人類に恩恵と平和をもたらすものでなければ意味がありません。デジタル楽器がより優れた演奏性と洗練された豊穡な表現を獲得したとき、音楽という文化に革新的な変化をもたらすに違いありません。今後とも、皆様方には様々な視点からご指摘・ご助言を賜り、今後の開発につなげていきたいと思っております。

## 事務局からのお知らせ

### 第2回全国大会研究発表者募集

第2回全国大会の研究発表者を募集しています。

内 容：電子キーボード（電子オルガン、電子ピアノ、シンセサイザーなどポータブルキーボード）に関する①表現、②教育、③理論などに関するもの  
発表時間：30分（質疑応答を含む）  
応募方法：発表題目および要旨を7月15日までに事務局に申し込む  
\*詳細は事務局にお問い合わせください。

### 学会誌『電子キーボード音楽研究』No.2 投稿者募集

学会誌『電子キーボード音楽研究』No.2への投稿者を募集しています。詳細はホームページの学会誌投稿規程をご参照ください。

原稿の種別および字数：電子キーボードを用いた音楽の演奏、創作、教育等に関係する①研究論文(20,000字以内)、②研究報告(10,000字以内)、③会員の活動報告(5,000字以内)、演奏会批評や書評(2,000字以内)、講習会報告、④会の内外の活動や情報についてのレポート。  
投稿者：原則として会員とする。ただし依頼原稿執筆者はこの限りでない。  
\*詳細に関しては、ホームページをご参照ください。

## H.P. (ホームページ) とメールアドレスの変更

E-mail : [jeks@snow.ocn.ne.jp](mailto:jeks@snow.ocn.ne.jp)

H.P. : <http://www18.ocn.ne.jp/~jeks/>

現在、H.P.のトップページは次のようになっています。

- ・JEKS TOP
- ・学会紹介
- ・会員&申し込み
- ・第2回全国大会
- ・沿革
- ・Voice of JEKS
- ・会員リンク
- ・お問い合わせ

**Voice of JEKS** は、日本電子キーボード学会の声として会員のみならず広く意見表明を発信していくページです。投稿(1,000~1,500字)は事務局にお問い合わせください。

**会員リンク** は、会員の活動を広く知っていただくページです。次のような形式でご連絡ください。内容は会員に関するものであれば電子キーボードに関連しないものでもかまいません。連絡先は次のように、H.P.とメール、メールと電話・ファックス、電話・ファックスなど都合のよいもので結構です。

EX:

氏名	トピックス	連絡先
Ex.学会太郎 更新:3月31日	学会のニュースレター第1号を3月31日発行	<a href="http://www18.ocn.ne.jp/~jeks/">http://www18.ocn.ne.jp/~jeks/</a> <a href="mailto:jeks@snow.ocn.ne.jp">jeks@snow.ocn.ne.jp</a>
Ex.学会花子 更新:3月31日	10月28日、国立音楽大学で「第2回全国大会」開催が決定。研究発表者募集中	<a href="mailto:jeks@snow.ocn.ne.jp">jeks@snow.ocn.ne.jp</a>
Ex.学会事務局 更新:3月31日	コンサートやセミナー案内、CDや本の出版などの情報	Tel:044-953-1230 Fax:044-953-6580

## 会員申込み

下記申込書にご記入の上、メール、ファックス、郵送でお送りください。

<b>日本電子キーボード学会申込書</b>	
氏名:	_____ 専門分野: _____
所属:	_____
住所:	〒 _____
電話&ファックス:	Tel: _____ Fax: _____
メール・アドレス:	_____
*会員名簿への住所などの記載(丸で囲む) ①する ②しない	
推薦者名(1名):	_____ *推薦者は正会員(3ページ参照)に依頼。 正会員に知り合いがない場合は、事務局へご相談ください。

学 会 費 : 正会員 5,000円 学生会員 2,500円 団体会員 10,000円

銀行口座:りそな銀行 新百合ヶ丘支店 普通預金 口座 No.1318267 口座名 日本電子キーボード学会  
\*郵便振込は申請中

### 《後書き》

ようやくニュースレターを発行する運びとなりました。5月発行予定の学会誌「電子キーボード音楽研究」およびホームページと三位一体となり、本学会の目的である「電子キーボードによる音楽の表現、教育、理論等の研究、および隣接諸科学に関連する学際的な研究協議を行い、もって音楽文化の発展に寄与すること」の一翼を担って行くべく努力して参ります。会員諸氏の忌憚のないご意見・ご投稿をお待ちしています。(阿方)